

88 個の鍵盤を目の前に、ピアニストは何をしているのか？ピアノ演奏の秘密が今解き明かされる…

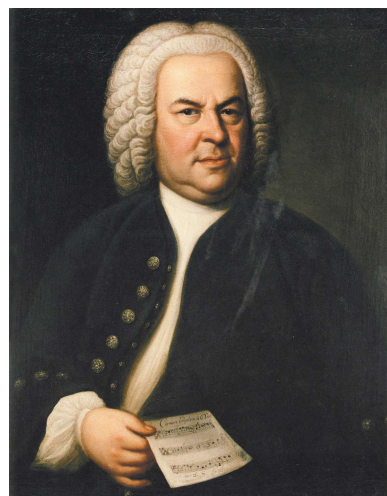
ピアニスト吉永哲道のスクール・オブ・ピアノ ＜ピアノの学校＞

七時間目

「作曲家と作品について語る」Vol.1

～あなたにはピアノとピアニストの対話が聞こえますか～

《 J.S. バッハの音楽が語るのは太古の生命力だ。母性の輝き、自己犠牲の苦しみ、あるがままの人間存在の美しさ。そこではすべてが法則にかなない、あらかじめ定められ、永遠である。》 — ヴェーラ・ゴルノスターエヴァ



スクール・オブ・ピアノ＜ピアノの学校＞に関心をお寄せいただき、大変有難うございます。今後の試みの一つといたしまして、特定の作曲家及びその作品について、私なりの理解でお話させていただく機会を設けていきたいと思っています。今回、七時間目はその最初の試みとしまして、J.S.バッハの音楽についてお話をさせていただきます。是非お越しいただければ幸いです。

吉永哲道



出演：吉永哲道（ピアノ）

演奏予定曲／J.S.バッハ：インヴェンションとシンフォニアより
トッカータ木短調 BWV914



2025 年 11 月 21 日（金） 14:00 開演（13:45 開場）

* 80 分程度を予定しています

カンマーザール in 立川 4 階 〈受講料〉全席自由 ¥1,500

〈主催〉音楽企画「マイスキューヴェーチエル」

〈後援〉認定 NPO 法人おんがくの共同作業場

〈チケット取扱い〉認定 NPO 法人おんがくの共同作業場

<http://www.gmaweb.net/npo/>

Tel:042-522-3943

音楽企画「マイスキューヴェーチエル」

e-mail : mv-pro@live.jp



この QR コードから一時間目のダイジェスト版がご覧になれます（約 14 分）無線 LAN または通信無制限のご契約以外の場合はご視聴に通信料がかかる場合がございますのでご注意ください。



ピアニスト 吉永哲道 スクール・オブ・ピアノ これまでの授業内容

これまでの授業内容を、チラシの紹介掲載文よりご紹介致します

〈会場〉カンマーザール in 立川 4階 〈開演〉14:00 〈受講料〉全席自由 ¥1,500

一時間目 2024年3月8日（金） 「ピアノとピアニストの対話が聞こえますか」

吉永氏は自分が思い描く音楽を一体どうやってピアノに伝えているのか？ピアノとの対話が聞ける一時間。演奏と演奏法、そして音色の作り方 etc..トークと演奏を交えて吉永氏が解説いたします。

〈演奏曲〉J.S.バッハ：トッカータとフーガ二短調 BWV565 (T.ニコラーエヴァ編曲)

二時間目 2024年6月21日（金） 「調律師さんに聞いてみよう！」

一時間目は演奏者の立場からのピアノの講義でしたが、二時間目は楽器の構造に詳しい調律師さんとの授業をお送りします。また、現代のピアノの可能性を最大限駆使し作曲をしたラフマニノフについて取り上げます。

ゲスト：更家雅之氏（調律師）

〈演奏曲〉S.ラフマニノフ：前奏曲嬰八短調 op.3-2（通称「鐘」）



三時間目 2024年8月2日（金） 「ピアニストのレッスンを覗いてみよう！」

三時間目は、ピアニストのレッスンを聴講いただきます。ラフマニノフとスクリャービンの作品を題材に、19世紀末から20世紀初頭の革命前夜のロシアを生きた二人の作曲家の各々の個性に切り込みます。ゲストピアニストの白川媛葉さんには、最後に、レッスン曲及びスクリャービンの音楽に触発されて作曲された山田耕筰の作品を演奏いただきます。

ゲスト：白川媛葉（ピアニスト）

〈演奏曲〉S.ラフマニノフ：プレリュード 口短調 op.32-10

A.スクリャービン：エチュード 変イ長調 op.8-8

山田耕筰：スクリャービンに捧げる曲より“忘れ難きモスコの夜”



四時間目 2024年11月22日（金） 「恩師を語る 〜ヴェーラ・ゴルノスターエヴァ先生のこと〜」

『1990年の春、後の私の人生にとって重要な出会いがありました。モスクワ国立音楽院の教授でいらっしゃったヴェーラ・ゴルノスターエヴァ先生。私は幸運にも、その出会いから8年間日本で、その後モスクワにて10年間、先生の薫陶を受けることができました。四時間目は恩師であるヴェーラ先生のことを、昔の日本でのレッスン映像などもご覧いただきながら、お話を致します。私の演奏の原点をたどる時間になると思います。』

〈演奏曲〉W.A.モーツァルト：ピアノソナタ八長調 KV330



五時間目 2025年3月7日（金） 「調律師さんに聞く、響きの秘密！」

五時間目は再び調律師の更家雅之さんをお迎えし、ピアノの構造やアクションの仕組み等、響きの性質を決定づけると言っても過言ではない「倍音」について、ピアノを使いながらお話いただきます。

ゲスト：更家雅之氏（調律師）

〈演奏曲〉D.ショスタコーヴィチ：プレリュードとフーガ第4番ホ短調（24のプレリュードとフーガ op.87 より）

六時間目 2025年7月4日（金） 「私が音色にこだわる理由」

五時間目の講座にて、調律師の更家雅之さんが、音に含まれる倍音量がタッチによって変わる事を、数値化による明確な違いとしてご説明くださいました。実際の演奏においての音色のコントロールは、演奏者の聴覚と鍵盤に触れる感触こそが頼りとなる行為と言えます。私は思うのです。究極的には、音色は演奏者の人生の反映である

と。
〈演奏曲〉F.シューベルト：即興曲八短調 op.90-1